

FOR IMMEDIATE RELEASE**エクイスエナジー、青森県にて新たに 15MW 太陽光発電所の商業運転開始**

(2017年7月3日)

アジア太平洋地域最大の独立発電事業者（IPP）であるエクイスエナジーは、青森県上北郡七戸町にて新たに 15MW 太陽光発電所の商業運転を開始しました。今回商業運転を開始した「手代森太陽光発電案件」は、エクイスエナジーが誇るエンジニアリング力、購買力、建設管理能力をもって全て自社開発した案件になります。自社で開発を行うことによって、エクイスエナジーは工事の質を上げるのみならず、大幅な開発コストおよび工期の削減をすることに成功しました。

エクイスエナジーは、青森県内に 170MW の発電容量を超える案件を保持しており、既に 5 カ所の太陽光発電所にて商業運転を開始しています。残る 5 カ所でも既に建設を開始しており、2017 年 12 月には新規で 36MW の風力案件を着工する予定です。青森県内の発電施設を管理するにあたり、エクイスエナジーは県内に O&M センター（運営・維持管理業務を行う施設）を設けており、現地で密に管理業務を行うことによって、ダウンタイムやリスクを軽減させながら、最大限の稼働率で発電所を運営しています。

エクイスエナジーは、日本国内に総計 0.9GW にのぼる 37 件の案件を保持しており、この他にも総容量 1.3GW 分の案件を現在開発中です。東京地域本社をはじめとし、青森県七戸町、福島県福島市、茨城県笠間市に事業所を構え、開発、設計、プロジェクト管理を行う経験豊かなエンジニア陣や投資のプロフェッショナルによるスタッフを 60 名以上雇用しています。

エクイスエナジーの日本代表であるアダム・バリーンは、次のように述べました。

「今回新たな発電所を稼働することができ、青森の皆様とより深くお付き合いできることを大変嬉しく感じております。より安価でクリーンな電力を現地の皆様にお届けするのみならず、弊社事業を通して地域雇用を創出し、また CSR 活動を通して地域発展に貢献できることを楽しみにしております。」

今回商業運転を開始した手代森太陽光発電所では、年間計 16,500MWh を発電します。これは、年間 3,128 世帯に供給可能な発電量に相当し、9,092 トンの CO2 削減、1,550 万リットルの節水効果をもたらします。

エクイスエナジーについて

シンガポールに本社を置くエクイスエナジーは、アジア太平洋地域に15のオフィスを展開し、100名の専門技術者および35名の現地開発に精通した開発要員を含む、272名のスタッフを雇用しています。エクイスエナジーは、発電容量ベースでアジア太平洋地域最大の再生可能エネルギー独立系発電事業者(IPP)であり、インド、インドネシア、オーストラリア、タイ、フィリピン、台湾および日本に跨って、合計4.4 GWにのぼる97カ所の再生可能エネルギー発電事業を保有しています。また、現在の4.4 GWのポートフォリオに加え、エクイスエナジーはさらに74件（計6.7 GW）の案件を開発中です。

本プレスリリースに関してのお問い合わせはこちらまで：

畦地 麻子（あぜち あさこ）

jp-enquiries@equisenergy.com